

南浦和駅西口から「文化通り」を歩いて7分ほど。噴水と木々に囲まれた「さいたま市文化センター」の建物内に、南浦和図書館があります。



昭和60年の開館当時から、市内南部エリアを対象とした地域密着型の図書館として、貸出を中心としたサービスを行ってきました。平成9年に東浦和図書館、平成17年に桜図書館が開館した現在もなお、土日のピーク時には貸出手続きを待つ人たちの行列がなかなか途絶えないほどの混雑ぶり。平成19年度には96万点の貸出利用がありました。

たっぷりの陽光がふりそそぐ明るい雰囲気、2階は、児童資料室。木彫りの飾りが可愛らしい書架の高さは子どもも利用しやすいよう低めになっています。

児童資料室。柱や壁に貼られた職員手作りの飾りは季節感たっぷりです。



毎週木曜日は、3時から幼児対象4時から小学生対象に、児童担当職員による「おはなし会」を開催。乳幼児を対象とした「あかちゃんおはなし会」や、クリスマスや夏休みのおはなし会にも力を入れています。児童資料室で配布している「BOOKS TALK(ブック・リレー)」はシリーズものの紹介リスト。No.1は「ぐりとぐら」、No.2は「バムとケロ」のシリーズを紹介しています。お立ち寄りの際は、ぜひ手にとってみてください。



もれなく読むためのチェックリスト付き。

(所在地)

南区根岸1-7-1



としょかん
探偵事務所

学校給食のはじまりは？

Q. 日本で学校給食が始まったのはいつか、またどんな献立だったのかを知りたい。

A. 給食と聞いて、おもわず懐かしくなる方も多いのではないだろうか。さっそく百科事典や事物起源事典にあたってみました。日本で学校給食が始まったのは戦後かと思いきや、その起源は意外に古く、明治22(1889)年に山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)の私立忠愛小学校で、貧困児童に無料で昼食を与えたことが始まりでした。

戦後は昭和21年に首都圏を中心に試験的に採用されたアメリカのララ(アジア救済連盟)等の脱脂粉乳や、軍が所有する缶詰などが使われました。また小麦が支給されたために、パン中心の献立でした。一時学校給食廃止の危機もありましたが、給食要望の全国的な運動が起こり、昭和29(1954)年には学校給食法が制定されて、本格的に実施体制が整いました。昭和40年代には脱脂粉乳から牛乳に代わり、パンだけでなく米飯が本格導入されたのは、昭和51(1976)年からでした。

給食の献立については『なつかしの給食』(アスペクト)シリーズに詳しく、献立だけでなく作り方まで写真入りで紹介されています。

参考文献『身近なモノの履歴書を知る事典』

(日刊工業新聞社)

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	桜木図書館 649-5871	春野図書館 687-8301	与野南図書館 855-3735
南浦和図書館 862-8568	大宮西部図書館 664-4946	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200
桜図書館 858-9090	北図書館 669-6111	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665
大久保東分館 853-7100	宮原図書館 662-5401	与野図書館 853-7816	
大宮図書館 643-3701	馬宮図書館 625-8831	西分館 854-8636	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集委員より★★ 毎日寒い日が続いて、外出するのがあっくうになっていませんか？ 散歩がてら図書館にお越しください。さまざまな本やイベントを用意してお待ちしております。

